

# News Paper



4月13日、菅義偉首相は、東京電力福島第一原発で生じている処理水（放射能汚染水）の処分をめぐり、「海洋放出」を閣議決定しました。それに対して「さようなら原発1000万人アクション」は、首相官邸（東京都千代田区）前で、「海洋放出反対」「漁業者の声を聞け」と抗議の声をあげました。（写真撮影：今井明）

「海洋放出」に対しては、全漁連や県漁連も「絶対反対」の姿勢を示し、県内の自治体の約7割が反対や慎重な対応を求める決議をあげており、県民合意ない中で、政府が一方的に方針を決定しました。

閣議後の記者会見で、麻生太郎財務相は、政府が海洋放出の方針を決めたことに関して、「科学的根拠に基づいて、なんで早めにやらないのか」「（放射能汚染水を）飲んでも何てことはないそうだと発言しました。中国や韓国などから「飲めるものだったら飲んだらいい」と反発の声があがりました。県民や漁民をも愚弄する発言は、「安全・安心」を軽視するものです。

また、復興庁は、方針決定を受けて、放射能汚染水に含まれるトリチウムをイラスト入りで説明したチラシと動画を13日夜にホームページに公開しましたが、多くの批判を受けて14日に中止しました。トリチウムをイラストのキャラクターで表現し、「身の回りにたくさんある」「大幅に薄めて海に流す」などと説明していましたが、問題を「ゆるキャラでごまかさないうで」などと批判が殺到したといいます。ここにも海洋放出に対する政府の認識の甘さが露呈しました。（7頁に関連記事）

<b>もくじ</b>	日本をまともな国にするために	94万人を安全に避難させることができるのか?.....6
	横田・基地被害をなくす会 福本道夫さんに聞く...2	放射能汚染水の「海洋放出」をやめる.....7
	復帰49年目の沖縄平和行進.....4	福島原発事故から10年、 未来への絶対条件を欠く政治.....8
	中距離ミサイルの配備をやめさせよう.....5	